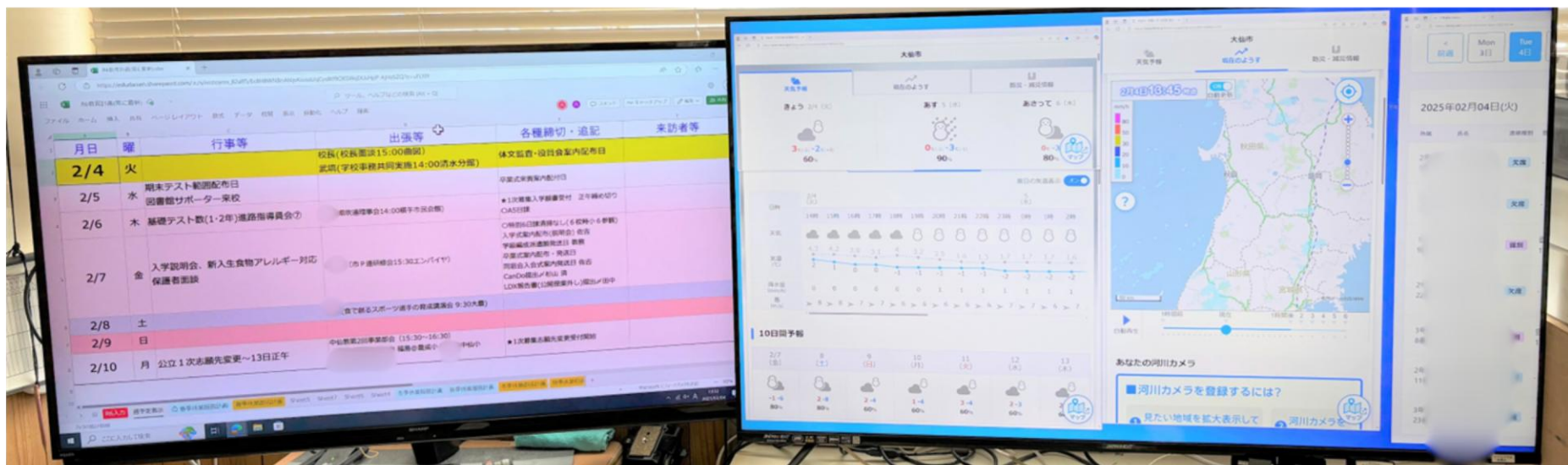


【取組内容】校務支援システム等の「必要な情報」の見える化（複数の外部モニターを利用）

Before: Microsoft Teamsの情報共有、欠席・遅刻者情報は教員が個別に確認していた。

After :職員室入口付近に大型モニター2機を設置し、「必要な情報」を大きく見せることで確実な情報の即時共有を図った。

これまではTeams上で情報を一元管理し、確認もそれぞれの教員が個別にアクセスして確認していた。その都度、タブレットを開き確認するまでもなく、必要な情報がリアルタイムに更新されるので、全ての教員が情報を共有できるようになった。



- ・週行事、動静、来客、締切等表示
- ・年間計画連動による毎日の自動更新
(Excel~TODAY関数・セル参照)

- ・天気予報、熱中症指数表示
- ・災害時のデータ表示(台風 河川増水)
～自動更新WEBサイトの活用(NHK)
- ・校務支援システム(欠席等の生徒把握)
～ブラウザ拡張機能による自動更新

こうした指導案の共有や研究協議会記録の共有は、研究会に参加できない場合においても学ぶ機会を創出し、教員個人の指導力向上に貢献している。

Aグループ

③ (進行)、校長、先生、児童

Bグループ

③ (進行)、教頭、先生、児童

参観・協議の視

・児童点、各自のめあてに向かって探究活動を行い、また、自分の学習の進め方（情報の集め方、整理の仕方、分析の仕方、まとめ方、表現の仕方等）について振り返ることができていた。

【個別最適な学び・自己調整力】

・児童は、必要に応じて、友達同士で学び合うことができていた。【協動的な学び】

4. 参観の時間：16:20～

① 参観の時間：16:20～

② 参観の時間：16:20～

③ 参観の時間：16:20～

④ 参観の時間：16:20～

⑤ 参観の時間：16:20～

⑥ 参観の時間：16:20～

⑦ 参観の時間：16:20～

⑧ 参観の時間：16:20～

⑨ 参観の時間：16:20～

⑩ 参観の時間：16:20～

⑪ 参観の時間：16:20～

⑫ 参観の時間：16:20～

⑬ 参観の時間：16:20～

⑭ 参観の時間：16:20～

⑮ 参観の時間：16:20～

⑯ 参観の時間：16:20～

⑰ 参観の時間：16:20～

⑱ 参観の時間：16:20～

⑲ 参観の時間：16:20～

⑳ 参観の時間：16:20～

㉑ 参観の時間：16:20～

㉒ 参観の時間：16:20～

㉓ 参観の時間：16:20～

㉔ 参観の時間：16:20～

㉕ 参観の時間：16:20～

㉖ 参観の時間：16:20～

㉗ 参観の時間：16:20～

㉘ 参観の時間：16:20～

㉙ 参観の時間：16:20～

㉚ 参観の時間：16:20～

㉛ 参観の時間：16:20～

㉜ 参観の時間：16:20～

㉝ 参観の時間：16:20～

㉞ 参観の時間：16:20～

㉟ 参観の時間：16:20～

㊱ 参観の時間：16:20～

㊲ 参観の時間：16:20～

㊳ 参観の時間：16:20～

㊴ 参観の時間：16:20～

㊵ 参観の時間：16:20～

㊶ 参観の時間：16:20～

㊷ 参観の時間：16:20～

㊸ 参観の時間：16:20～

㊹ 参観の時間：16:20～

㊺ 参観の時間：16:20～

㊻ 参観の時間：16:20～

㊼ 参観の時間：16:20～

㊽ 参観の時間：16:20～

㊾ 参観の時間：16:20～

㊿ 参観の時間：16:20～

【取組内容】 クラウドを活用した研修内容の編集と共有

Before:地域の研修は主担当の教員が参集し、会議、その後各校で共有という形をとっていた。

After : 参集できる教員が集まり、クラウド上のホワイトボードを活用して意見集約、編集、共有という形をとった。参集できない教員もオンラインで参加することができた。

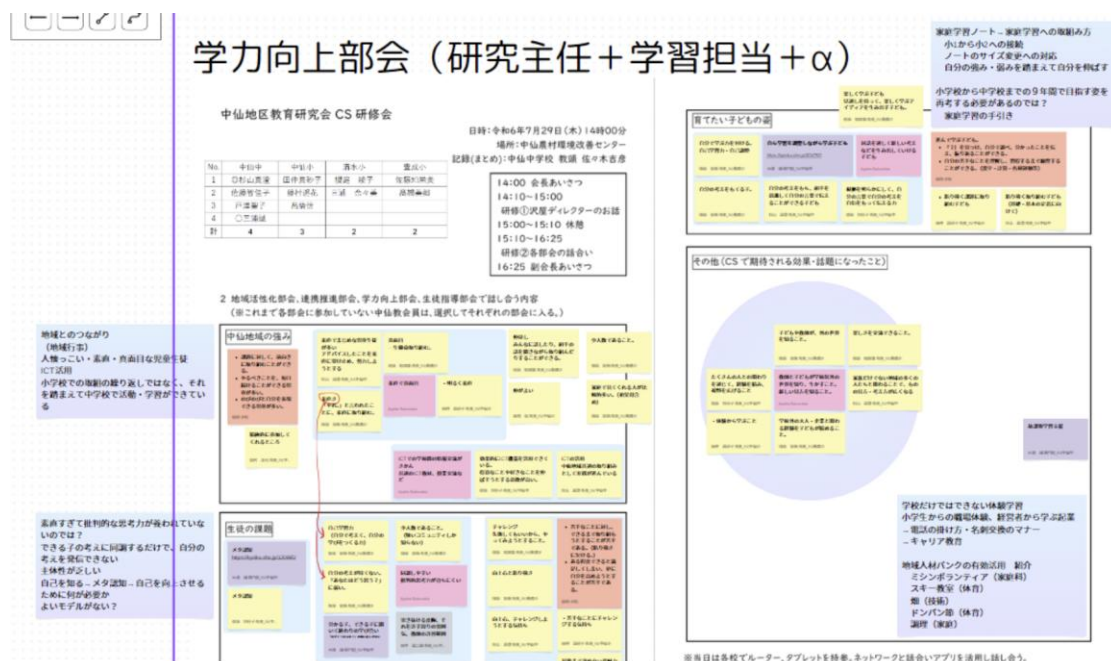
コミュニティスクールの研修をクラウドを活用して行った。意見交流ではデジタルホワイトボードを活用し、授業でも使える事例として研修に組み込んだ。研究協議会等でもデジタル付箋を活用することで、AIを使って項目ごとに瞬時にまとめることができる利便性を学んだ。

その他、中仙地区の校長会で話題に上がったことはすぐにまとめられ、地域の先生方が所属するTeamに配信されている。こうした教員の研修機会が授業でのICT活用にも生かされている。

研修のアウトプットをデジタルホワイトボードにすることで即時編集・共有を実現



校長部会の様子 中央にタブレットを配置しアウトプットと編集を行っている



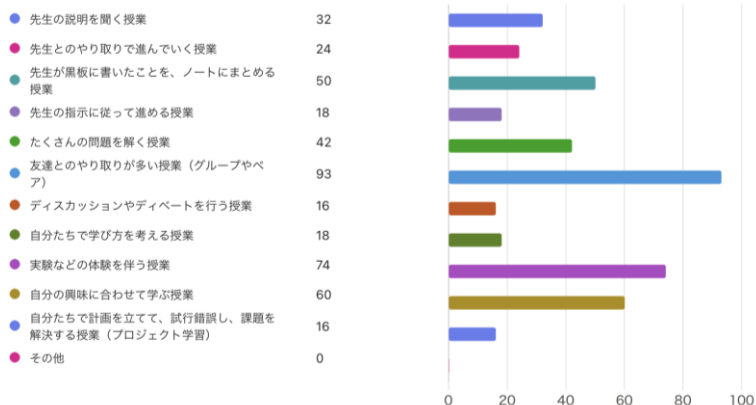
リーディングDXスクール事業【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）【指定校】

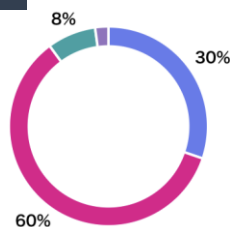
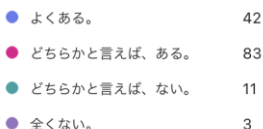
【取組内容】 個別最適な学びにするための教員の意識の変革

生徒へアンケート2025年1月段階のもの

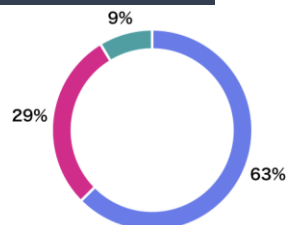
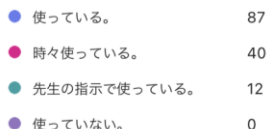
どんな授業が好きですか？



授業では、自分で学び方やペースを選んで学ぶ機会がありますか？



授業では、自分のタイミングで、目的に合わせて、タブレット端末を使っていますか？



Before: これまでは、教師の指示のもとタブレットを使うような授業スタイルであった。

After: 子どもの主体性を促し、より自分の学びのスタイルに合わせて選んでいけるような授業を構築しようと各教科で取り組んできた。

全ての教科で意識したことは、自分で決めること、自分で選ぶなどの「自己決定の場面を増やすこと」である。自らの学びを自己調整できる生徒の育成を目指しているため、こうした場면을意図的につくっていくことで生徒が変容してくるのではないかと仮説のもと研究してきた。

結果として、左図のように「授業では、自分で学び方やペースを選ぶ機会はあるか」という質問に90%の生徒が肯定的な回答であった。また、「自分のタイミングで目的に合わせてタブレット端末を使っているか」の質問では、92%の生徒が肯定的な回答をしており、昨年度は50%以下だったものが改善されてきた。

授業における「生徒の自己決定の場面」の増加は、生徒の学び方にも少しずつ影響を与えている。学び方が単線的なものだったものが複線型の授業が増えてきたことで、自分のペースに合わせて学び、安心して学びに向かう姿が見られてきた。

各教科で取り組んできたが、総じて生徒の授業に向かう態度はより主体性を増してきている。見通しをもたせることの重要性と、学び方の自己決定について、さらに研究を進めていきたい。

美術科の進度及び計画確認表